事実条件を表す現代日本語「たら」と
現代韓国語「-었더니 essteni」の対照分析

尹　聖樂

要旨

It is generally said that *tara*, which is a Japanese conditional marker, corresponds to *myen* which is a Korean conditional marker. However, *tara* corresponds to a Korean connective marker *essteni* when *tara* describes temporal past specific events. This paper focuses on the similarities and differences between *tara* for temporal past specific events and *essteni*. It confirms that *tara* for temporal past specific events is used to describe when a speaker has recognized an event in the consequent in a situation where an event in the antecedent has occurred, while *essteni* is used to describe when a speaker has recognized an event in the consequent owing to occurrence of an event in the antecedent. In addition, it also proves that an event in the consequent of *tara* describes that a speaker has recognized an event from the viewpoint of the speaker, while an event in the consequent of *essteni* describes that a speaker has recognized an event from the viewpoint of the event.

キーワード：たら，-었더니 essteni，事実条件，日韓対照

1. はじめに

現代日本語の「たら」は条件を表す形式の一つであり、主に仮説条件、反事実条件と呼ばれるものを表す際に用いられる（前田 2009、グループ・ジャマシイ 2011 など）。そして現代韓国語と対照すると、いずれの用法においても「-면 myen[1]」と主に対応する。

（1） a. 万が一雨が降ったら試合は中止です。（仮説条件）
b. 만일에 비가 오면 경기는 중지됩니다.
maniley pi-ka o-myen kyengki-nun cwungci-toy-pnita[2]
万が一 雨-が 降る-MYEN 試合-は 中止-される-［丁寧］[3]
（グループ・ジャマシイ 2011：223）

（2） a. 背がもう少し高かったら、良いモデルになれただろうに。（反事実条件）
b. 키가 좀 더 컸으면 좋은 모델이

khi-ka com te kh-ess-umyen coh-un moteyl-i
背-が 少し もっと 高い-［過去］-MYEN 良い-［連体］ モデル-が
될 수 있었을 텐데.
toy-l swu iss-ess-ul theyntey
なる-［可能］-［過去］-［連体］ はずなのに（韓国・国立国語院 2012：794）

しかし、現代日本語の条件を表す「たら」には、前件と後件の事態が既に起こった一回限りの事態である事実条件を表す用法もあるが[4]、このような環境では「-면 myen」とは対応することができず、「-었더니 essteni[5]」などの形式と対応することがある[6][7]。

(3) a. 薬を飲んだら熱が下がった。
b. 약을 {먹었더니／ ?먹으면}[8] 열이 내렸다.
yak-ul {mek-essteni／ ?mek-umyen} yel-i nayly-ess-ta
薬-を {飲む-ESSTENI／ 飲む-MYEN} 熱-が 下がる-過去-［叙述］
（グループ・ジャマシイ 2011：227）

このような点に注目し、従来の対照研究では、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の対応の様相を確認したり、両形式の共通点を明らかにしたりしようと試みている。しかし、その多くが両形式の共通点のみに注目しており、以下の例文が示しているように、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」が対応関係をなさない場合もあるが、その点に言及した先行研究は、管見の限り見当たらない。

(4) a. 二階の部屋で着替えをしていたら、窓の下で物音がした。 （ナミヤ：145）
b. 이 층 방에서 옷을 {갈아입고 있는데／
i chung pang-eyse os-ul {kalaip-ko iss-nuntey／
二 階 部屋-で 服を {着替える-［状態］-NUNTEY／
?갈아입고 있었더니} 창문 밖에서 무슨
?kalaip-ko iss-essteni} changmwun pakk-eyse mwusun
着替える-［状態］-ESSTENI} 窓 外-から 何の
소리가 났다.
soli-ka n-ass-ta
音-が する-［過去］-［叙述］ （나미야 namiya：172）

(5) a.「昨日アロンサテを {出さなかったから／?出さなかったら}、こんな形で報復しているんだ」 （食客 3：21）
b. “어제 아롱사태를 내놓지 않았더니 이런 식으로

ecey　alongsathay-lul　naynoh-ci anh-assteni　ile-n　sik-ulo
昨日　アロンサテ-を　出す-［否定］-ESSTENI こうだ-［連体］式-で
보복하고 있어”
popokha-ko iss-e
報復する-［状態］-［叙述］　（식객 sikkayk 3：34）

このような現状から、本稿は、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」との類似点と相違点を考察することを目的とする。

2. 先行研究及びその問題点と本稿の分析方法

ここでは、従来の研究において、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」がどのように論じられているかを確認する。そして、両形式を対照分析した研究も概観する。

はじめに、事実条件を表す「たら」について論じた先行研究として久野（1973）が挙げられる。久野（1973）は事実条件を表す「たら」について、「S1 が表す動作・出来事と、S2 が表す動作・出来事との間には意図的・計画的な時間的前後関係があってはならない」と述べ、前件と後件の間に意味的な制約があることを指摘している。また、事実条件を表す「たら」の制約について一層詳しく述べている研究に蓮沼（1993）がある。蓮沼（1993）は、事実条件を表す「たら」の使用が不自然になる場合として『同一主語の意志的行為の「連続」を表す場合』、「前件が話し手以外の意志的な動作を表し、全体が引用標識なしで表現されたような場合」、「前件・後件が同一主体の無意志的な動作や変化の連続を表すような場合」という三つを挙げ、このような制約から、事実条件を表す「たら」の使用条件について「前件の事態が成立した状況において、後件の事態を話し手が実体験的に認識するといった関係を表す場合に使用される」という仮説を立てている。なお、これと類似した主張が有田（1999）でも見られる。有田（1999）は、事実条件を表す「たら」について、「同一主体の動作の連続の場合と、前件の事態が無意志的動作（変化）で後件が意志的な動作の組み合わせの場合にはタラは用いられない」と述べた後、『話者あるいは前件の行為者が、前件の行為あるいは事象が成立して初めて後件の成立を「知る」という関係でなければならない』とまとめている。一方、前件と後件の因果関係に注目した研究には前田（2009）がある。前田（2009）は、従来の研究での制約を認めつつ、さらに『前件が新たな事態（情報）の獲得を表し、それによって起こった「非意志的な反応」が後件に表される』という因果関係が見られると述べている。

次に、「-었더니 essteni」について述べている先行研究には、ソ・ジョンス（1994）を挙げることができる。ソ・ジョンス（1994）は、「-었더니 essteni」について「前件の主語が 1 人称、つまり話し手自身の場合には、話し手の知覚行為を叙述するための状況設定の役割をする。つまり前件は話し手の知覚行為が行われたことを表し、後件はその知覚内

容を明かす」と述べ、前件と後件の関係から「-었더니 essteni」の意味を捉えようとしている。一方、「-었더니 essteni」を証拠性という観点から捉えた研究にはソン・ジェモク（2011）がある。ソン・ジェモク（2011）は、「-었더니 essteni」は「自分が直接経験した事実や状況の記述に用いられ、直接経験していない事実の記述には適切ではない」と述べ、「-었더니 essteni」は「直接知識」の証拠性の意味を持っているとしている。また、「-었더니 essteni」の制約に注目した研究にイ・ピリョン（2011）がある。イ・ピリョン（2011）は「-었더니 essteni」の制約について『「-었더니 essteni」に先行する述語が能動性を表さなければならない』、「後件は一人称主語の行動を表してはならない」、『「-었더니 essteni」の後件の述語が主語の内面的／身体的状態を表す場合を除き、必ず前件と後件の主語が異ならなければならない』の三つを挙げている。そしてこれらの制約から、「-었더니 essteni」の特徴を「前件の主語のある作用による他の主体の反応／結果や同一主体の非自発的な反応／結果が継起的に行われることを表す」と捉えている。

最後に、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」を対照分析した先行研究に安平鎬（2002）を挙げることができる。安平鎬（2002）は、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」それぞれに含まれている「タ」と「-었 ess-」が共にパーフェクト性を有しているため、前件は後件の事態を発見するきっかけとなる「場」を提示する機能をする点で共通するとしている。また、「タ」と「-었 ess-」は通時的にも存在型アスペクト形式から存在動詞が文法化して成立したという点でも共通するとしている。なお、事実条件を表す「たら」の意味・用法をいくつかに分け、それぞれの意味・用法において現代韓国語のどのような形式と対応するかを確認した研究においても「たら」と「-었더니 essteni」の関係への言及が見られる（ソン・ソネ 2006、キム・ソニョン 2013 など）。これらの研究でも事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の共通点に注目しており、キム・ソニョン（2013：41）は『「-었더니 essteni」が話し手が直接経験した知覚や発見を表す際に頻繁に用いられるという点と、事実条件を表す「たら」が話し手が直接経験した新しい事態を認識する用法として主に用いられ、事態を客観的に叙述する文脈ではあまり用いられないという点において、互いに類似している』と述べている。

以上の通り、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」には類似する部分が多く、従来の研究は主に両形式の類似点や対応の様相に注目している。しかし、類似点のみでは事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」が全ての環境で対応関係をなすとみなされる可能性があり、(4)（5）において両形式が対応しない場合については説明することができない。このような点を踏まえ、本稿は、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」が対応関係をなす場合だけでなく、対応関係をなさない場合にも注目し、両形式の類似点と相違点を明らかにしたい。

分析は、現代日本語と現代韓国語で書かれた小説、漫画とそれぞれの対訳を用いて、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」が対応関係をなす例文となさない例文を収

集して行った。対訳を用いたのは、両形式の対応の様相が確認でき、さらに両言語から確認することによって事実条件を表す「たら」は自然なのに対し、「-었더니 essteni」は不自然な場合、反対に「-었더니 essteni」は自然なのに対し、事実条件を表す「たら」は不自然な場合が確認できるためである。また必要に応じて、コーパス、先行研究による例文、作例なども用いたが、例文に訳を付けたり、作例を作ったりする際にはそれぞれの母語話者にインフォーマント調査を行い、容認度の判断をしてもらった。

3. 事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の形式的特徴および意味・用法

はじめに、両形式の意味・用法について概観する。前田（2009）は、形式的特徴を基準に事実条件を表す「たら」の意味・用法を四つに分類しているが、いずれも「-었더니 essteni」と対応する。

(6) a. 前の晩、社内懇親会があり、気の置けない同期たちと久しぶりに会ってアルコールを口にしたら、なにやら張っていたものが緩んで飲み過ぎてしまった。
（ナオミ：156）

b. 전날 밤, 사내 친목회가 있어서 부담스럽지 않은
cennal pam, sanay chinmokhoy-ka iss-ese pwutamsulep-ci anh-un
前日 夜 社内 親睦会-が ある-［理由］ 負担だ-［否定］-［連体］
동기들과 오랜만에 알코올을 입에 댔더니,
tongkitul-kwa olaynman-ey alkhool-ul ip-ey tay-ssteni,
同期たち-と 久しぶり-に アルコール-を 口-に 当てる-ESSTENI
자연스럽게 그동안의 긴장이 풀려 과하게
cayensulep-key kutongan-uy kincang-i phwully-e kwaha-key
自然だ-に 今まで-の 緊張-が 解ける-［理由］ 過度だ-［副詞］
마시고 말았다.
masi-ko mal-ass-ta
飲む-［連用］ しまう-［過去］-［叙述］ （나오미 naomi：175）

(7) a.「幼稚園でバーベキュー大会があったときも、園長先生が舞ちゃんに肉を焼かせたら、血相を変えて飛んできて、火傷したらどうするんだって園長先生にくってかかって、気まずい雰囲気になったこともあります」 （無痛：129）

b. “유치원에서 바비큐 대회가 있었을 때도,
yuchiwen-eyse papikhyu tayhoy-ka iss-ess-ul ttay-to
幼稚園-で バーベキュー 大会-が ある-［過去］-［連体］ 時-も
원장 선생님이 마이에게 고기를 구우라고 시켰더니
wencang sensayngnim-i mai-eykey koki-lul kwuwu-lako sikhy-essteni

園長　先生-が　舞-に　肉-を　焼く-［引用］ させる-ESSTENI
아주　펄펄　뛰면서　화상이라도　입으면
acwu　phelphel　ttwi-myense　hwasang-ilato　ip-umyen
とても　ぴょんぴょんと 跳ねる-ながら やけど-でも　する-たら
어떻게　할　거냐고　따지고 들어서,
etteh-key　ha-l　ke-nyako　ttaciko tul-ese
どう-［副詞］ する-［連体］ つもり-［引用］ 食ってかかる-［理由］
분위기가　얼마나　어색해졌는데요”
pwunwiki-ka　elmana　esaykha-y-cy-ess-nuntey-yo
雰囲気-が　どんなに 気まずい-［連用］-なる-［過去］-［婉曲］-［丁寧］
（무통 mwuthong：175）

(8)　a.「店のほうで物音がしたから様子を見に行ったら、郵便用の小窓の下にこれが落ちてた」（ナミヤ：29）

b. “가게 쪽에서　소리가 나서　가봤더니
kakey　ccok-eyse　soli-ka　n-ase　k-apw-assteni
店　側-から　音-が　する-［理由］　行く-［試行］-ESSTENI
우편함　밑에　이게　떨어져 있었어”
wuphyenham　mith-ey　ike-y　ttelecy-e iss-ess-e
郵便ポスト　下-に　これ-が 落ちる-［状態］-［過去］-［叙述］
（나미야 namiya：36）

(9)　a.「本当はダメなんだけど、ドアの隙間から必死で覗いていたら、看護婦さんが、特別ですよ、って中に入れてくれたの」（母性：26）

b. “원래는　안　되는데,　문틈으로　기를 쓰고
wenlay-nun　an　toy-nuntey　mwunthum-ulo　ki-lul ssu-ko
もともと-は　［否定］ できる-けど　ドアの隙間-から　必死だ-［付帯］
{들여다보고 있으니까[9]／　있었더니}　간호사가
{tulyetapo-ko iss-unikka／　ulyetapo-ko　iss-essteni}　kanhosa-ka
{覗く-［状態］-UNIKKA／ 覗く-［状態］-ESSTENI}　看護婦-が
특별히　안으로　들여보내줬단다”
thukpyel-hi　an-ulo　tulyeponay-cw-ess-tanta
特別-に　なか-へ　入れる-くれる-［過去］-のだ　（모성 moseng：28）

(6) は「A は～したら、～した」という形で、同一主体の事態が連続して起こったことを表しており、(7) は「A が～したら、B が～した」という形で、異主体の事態が連続して起こったことを表している。また、(8) は「A が～したら、B が～していた」とい

う形で、前件の事態によって後件の状態を発見したことを表しており、(9) は「A が～していたら、B が～した」という形で、前件の状態が継続している最中に後件の事態が起こったことを表している。前田（2009）ではそれぞれ「連続」「きっかけ」「発見」「発現」と呼ばれているが、「-었더니 essteni」も全ての意味・用法において用いられる。

なお、後件には話し手の意志でコントロールできる事態は表すことができず、話し手が新たに認識した事態を表す点でも事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」は対応する。例えば、(6) の後件「張っていたものが緩んだ」は話し手の意志でコントロールできない状態変化を表しており、(7) の後件「園長先生にくってかかった」は第三者の行為を表している。また、(8) の後件「郵便用の小窓の下にこれが落ちている」はあるものの状態を表しており、(9) の後件「中に入れてくれた」も第三者の行為を表している。いずれも話し手の意志ではコントロールできない事態であり、話し手が新たに認識したことを表している。

以上のように、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」は意味・用法において多くの点で類似していると言える。

4. 事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の機能における相違

3 節で確認した通り、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」は多くの点で類似しているが、常に両形式が対応するわけではない。例えば以下の例文では、事実条件を表す「たら」は自然であるのに対し、「-었더니 essteni」は不自然である。

(10) a. 二階の部屋で着替えをしていたら、窓の下で物音がした。 （＝ (4a)）

b. 이 층 방에서 옷을 {갈아입고 있는데／
i chung pang-eyse os-ul {kalaip-ko iss-nuntey／
二 階 部屋-で 服を {着替える-［状態］-NUNTEY／
?갈아입고 있었더니} 창문 밖에서 무슨
?kalaip-ko iss-essteni} changmwun pakk-eyse mwusun
着替える-［状態］-ESSTENI} 窓 外-から 何の
소리가 났다.
soli-ka n-ass-ta
音-が する-［過去］-［叙述］ （＝ (4b)）

(11) （殺人現場で警察官が複数の容疑者から話を聞いて）

a.「鴻江さんが 2 人を倉庫へ連れて行き…倉庫の入口のところで店主を呼んだが返事がなく…2 人を倉庫に残して山田さんと伴場さんの所へ戻り、店主の居場所を思案していたら…倉庫で待っていたあなた方が倉庫の奥で店主の遺体を発見した…」 （コナン：88）

b. “코우노에 씨가 두 사람을 창고로 데려 갔는데…
khowunoey ssi-ka twu salam-ul changko-lo teylyeka-ss-nuntey
鴻江 さん-が 二人-を 倉庫-へ 連れて行く-［過去］-けど
창고 입구 쪽에서 오너를 불러 봐도 대답이 없어…
changko ipkwu ccok-eyse one-lul pwull-e pw-ato taytap-i eps-e
倉庫 入口 側-で 店主-を 呼ぶ-［試行］-ても 返事-が ない-［理由］
두 사람을 창고에 남겨두고 야마다 씨와 밤바 씨가
twu salam-ul changko-ey namkyetwu-ko yamata ssi-wa pampa ssi-ka
二人-を 倉庫-に 残しておく-［継起］ 山田 さん-と 伴場 さん-が
있는 곳으로 돌아가 오너가 어디 있는지
iss-nun kos-ulo tolak-a one-ka eti iss-nunci
いる-連体 ところ-へ 戻る-［継起］ 店主-が どこ いる-か
｛궁리하고 있던 중／ ?궁리하고 있<u>었더니</u>｝…
｛kwungliha-ko iss-ten cwung／ ?kwungliha-ko iss-<u>essteni</u>｝
｛思案する-［状態］-TEN CWUNG／ ?思案する-［状態］-<u>ESSTENI</u>｝
창고에서 기다리던 여러분이 창고 안쪽에서 오너의 시신을
changko-eyse kitali-ten yelepwun-i changko anccok-eyse one-uy sisin-ul
倉庫-で 待つ-ていた 皆さん-が 倉庫 奥-で 店主-の 遺体-を
발견했다…”
palkyenha-yss-ta
発見する-［過去］-［叙述］ （코난 khonan：88）

（10）（11）は、「A が～していたら、B が～した」という形で、前件の状態が継続している最中に後件の事態が起こったことを表している。形式的には（9）と類似しているが、（9）では「-었더니 essteni」が自然であるのに対し、（10）（11）では不自然であり、両者に相違があることが考えられる。比較のために、「A が～していたら、B が～した」の形で「-었더니 essteni」が自然な例文を以下に挙げておく。

（12） a.「本当はダメなんだけど、ドアの隙間から必死で覗いてい<u>たら</u>、看護婦さんが、特別ですよ、って中に入れてくれたの」 （＝（9a））
b. “원래는 안 되는데, 문틈으로 기를 쓰고
wenlay-nun an toy-nuntey mwunthum-ulo ki-lul ssu-ko
もともと-は ［否定］ できる-けど ドアの隙間-から 必死だ-［付帯］
｛들여다보고 있으니까／ 있<u>었더니</u>｝ 간호사가
｛tulyetapo-ko iss-unikka／ ulyetapo-ko iss-<u>essteni</u>｝ kanhosa-ka

｛覗く-［状態］-UNIKKA／ 覗く-［状態］-ESSTENI｝　看護婦-が
특별히　　안으로　들여보내줬단다”
thukpyel-hi　an-ulo　tulyeponay-cw-ess-tanta
特別-に　　なか-へ　入れる-くれる-［過去］-のだ　　（＝（9b））

（13） a. 吸い込まれるように見つめていたら、男が怪訝そうに直美を一瞥した。
（ナオミ：63）

b. 빨려드는　　것처럼　　바라보고 있었더니　　남자가
ppallyetu-nun　　kes-chelem　palapo-ko iss-essteni　　namca-ka
吸い込まれる-［連体］　の-ように　見つめる-［状態］-ESSTENI　男-が
이상하다는 듯　　나오미를　　흘낏거렸다.
isangha-tanun tus　naomi-lul　hulkkiskely-ess-ta
変だ-ように　　直美-を　　一瞥する-［過去］-［叙述］（나오미 naomi：74）

（10）（11）を（12）（13）と比較してみると、前件と後件の事態間の関係が異なることがわかる。（12）（13）では前件に表される状態が後件の事態を引き起こしているのに対し、（10）（11）ではそのような関係は見られず、単に前件の状態が継続している最中に、偶然後件の事態が起こったという、時間的状況を表している。例えば、（10）は「二階の部屋で着替えをしている」最中に、偶然「窓の下で物音がした」ことを表しており、「二階の部屋で着替えをしている」行為が「窓の下で物音がした」ことを引き起こしたとは考えにくい。（11）も鴻江、山田、伴場という三名の人物が「店主の居場所を思案している」最中に、偶然倉庫にいた二名が「倉庫の奥で店主の遺体を発見した」ことを表しており、「店主の居場所を思案している」行為が「倉庫の奥で店主の遺体を発見した」ことを引き起こしたとは考えにくい。それに対し、（12）は「ドアの隙間から必死で覗いている」状態を看護婦が見てその反応として「中に入れてくれた」ことを表しており、（13）も「吸い込まれるように見つめている」状態を男が見てその反応として「怪訝そうに一瞥した」ことを表している。いずれも前件の状態が後件の事態を引き起こしており、前件の状態は後件の事態のきっかけとして機能している。すなわち、「-었더니 essteni」は前件の事態が後件の事態のきっかけとして機能する場合にのみ自然に用いられると言える。そして、このような特徴は他の意味・用法を表す場合においても同様である。

（14） a. 前の晩、社内懇親会があり、気の置けない同期たちと久しぶりに会ってアルコールを口にしたら、なにやら張っていたものが緩んで飲み過ぎてしまった。
（＝（6a））

b. 전날　밤,　사내　친목회가　　있어서　　부담스럽지 않은
cennal pam, sanay　chinmokhoy-ka iss-ese　　pwutamsulep-ci anh-un

前日　夜　社内　親睦会-が　　ある-［理由］ 負担だ-［否定］-［連体］
동기들과　오랜만에　알코올을　입에　댔더니,
tongkitul-kwa olaynman-ey alkhool-ul ip-ey tay-ssteni,
同期たち-と 久しぶり-に アルコール-を 口-に 当てる-ESSTENI
자연스럽게　그동안의　긴장이　풀려　과하게
cayensulep-key kutongan-uy kincang-i phwully-e kwaha-key
自然だ-に　今まで-の　緊張-が　解ける-［理由］ 過度だ-［副詞］
마시고　말았다.
masi-ko mal-ass-ta
飲む-［連用］ しまう-［過去］-［叙述］　（＝（6b））

（15） a.「どうしたのって訊いたら、別に何でもないっていうの」　（ナミヤ：148）
b. “웬일이냐고　물어봤더니　그냥　별일
weynil-inyako mwul-epw-assteni kunyang pyelil
どうした-［引用］ 訊く-［試行］-ESSTENI ただ　大した事
아니라고만　하시는　거야”
ani-lako-man hasi-nun ke-ya
ない-［引用］-だけ おっしゃる-［連体］ の-［叙述］（나미야 namiya：175）

（16） a.「店のほうで物音がしたから様子を見に行ったら、郵便用の小窓の下にこれが落ちてた」　（＝（8a））
b. “가게 쪽에서　소리가 나서　가봤더니
kakey ccok-eyse soli-ka n-ase k-apw-assteni
店　側-から　音-が　する-［理由］ 行く-［試行］-ESSTENI
우편함　밑에　이게　떨어져 있었어”
wuphyenham mith-ey ike-y ttelecy-e iss-ess-e
郵便ポスト　下-に　これ-が 落ちる-［状態］-［過去］-［叙述］（＝（8b））

ただし、ここで述べているきっかけは、事態の成立におけるきっかけではなく、話し手の認識におけるきっかけであることに注意されたい。例えば、（16）で後件の事態は前件の事態が成立する前から続いており、「見に行った」事態がきっかけで「これが落ちている」状態が成立したわけではない。話し手が「見に行った」ことがきっかけで、その結果「これが落ちている」状態を認識したことを表しているのである。他の意味・用法においても同様のことが言える。

以上のことから、「-었더니 essteni」の前件は話し手が後件の事態を新たに認識するきっかけとして機能すると言える。そのため、単に前件が後件の事態が起こった際の時間的状況を表す場合は、「-었더니 essteni」は用いられず、後件の事態を関連する状況を提

示する「-는데 nuntey」や、ある事態が続いていた最中を表す「-던 중 ten cwung」など、他の形式が用いられなければならない。それに対し、事実条件を表す「たら」は前件の事態が後件の事態を新たに認識するきっかけとして機能せず、単に前件が後件の事態が起こった際の時間的状況を表す場合にも自然に用いられる。このことから、蓮沼（1993）でも指摘されているように、事実条件を表す「たら」の前件は話し手が後件の事態を新たに認識する状況として機能すると言えるだろう。

したがって、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」は機能において異なると言えよう。

5. 後件の事態に対する話し手の捉え方の相違

4 節では、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の機能に相違があることを確認したが、両形式とも後件は話し手が新たに認識した事態を表すという点では類似していた。しかしながら、新たに認識した事態を後件に表す際にも相違が見られる。例えば以下のような例文では、「-었더니 essteni」は自然であるのに対し、事実条件を表す「たら」は不自然である。

（17） a.「昨日アロンサテを｛出さなかったから／?出さなかったら｝、こんな形で報復しているんだ」 （＝（5a））

b. “어제 아롱사태를 내놓지 않았더니 이런 식으로
ecey alongsathay-lul naynoh-ci anh-assteni ile-n sik-ulo
昨日 アロンサテ-を 出す-［否定］-ESSTENI こうだ-［連体］ 式-で
보복하고 있어”
popokha-ko iss-e
報復する-［状態］-［叙述］ （＝（5b））

（18） a. 花子のパソコンを勝手に｛いじったから／?いじったら｝、花子が僕にやり返しているんだ。

b. 하나코 컴퓨터를 마음대로 만졌더니 하나코가
hanakho khemphyuthe-lul maumtaylo mancy-essteni hanakho-ka
花子 パソコン-を 勝手に いじる-ESSTENI 花子-が
나한테 복수하고 있어.
na-hanthey pokswuha-ko iss-e
僕-に やり返す-［状態］-［叙述］ （作例）

(17) は、アロンサテを出してくれという客の要求をレストランの店員である話し手が断ると、その翌日にアロンサテを要求していた客が再びレストランに来店し、騒ぎ散らし

ている場面での話し手の発話であり、(18) は話し手が勝手に花子のパソコンを触ったため、花子が話し手にやり返している場面での発話である。形式的には前出の（8）と類似しているが、前件の事態の成立がきっかけで後件の事態が起こり、発話時においてその後件の事態が継続していることを表している。だが、このような特徴が原因で事実条件を表す「たら」が不自然なわけではない。以下の例文では、(17)（18）と同様の特徴を有しているが、事実条件を表す「たら」が自然に用いられている。

（19） ひとつくらいは大目に見ようと、「いいよ」といったら、大きなエビの天ぷらをバクバク食べている。 （BCCWJ-NT）

（20） すぐに家に電話をしたら、留守番の岡住さんがオロオロしている。 （BCCWJ-NT）

(17)（18）と（19）(20）を比べてみると、後件の事態と話し手との関係が異なっていることがわかる。(17)（18）で、後件の事態は話し手にとって好ましくない影響を与えており、話し手と後件の事態がかかわりを持つのに対し、(19)（20）で後件の事態は話し手にどのような影響も与えておらず、話し手と後件の事態はかかわりを持たない。例えば、(17）の後件「こんな形で報復している」は店員である話し手に対して相手が報復をしていることを表しており、話し手は被害を受けている。それに対し、(19）の後件「大きなエビの天ぷらをバクバク食べている」は相手が大きなエビの天ぷらを食べている様子を描写しているのみで、その行為によって話し手が被害や迷惑などは受けていない。すなわち、話し手と後件の事態がかかわりを持つか否かが事実条件を表す「たら」の使用において重要であると言える。

しかし、話し手と後件の事態がかかわりを持つからといって必ずしも事実条件を表す「たら」が用いられないわけではない。後件の述語に補助動詞「てくる」が用いられると、話し手と後件の事態がかかわりを持つ場合でも事実条件を表す「たら」の容認度が上がる。

(21）「昨日アロンサテを出さなかったら、こんな形で報復してきているんだ」 （cf.（5a））

(22） 花子のパソコンを勝手にいじったら、花子が僕にやり返してきているんだ。 （cf.（18a））

グループ・ジャマシイ（1998 : 251）によれば、「てくる」には話し手や話し手が視点を置いている人に向かってある動作が行われることを表す機能があるという。すなわち、事実条件を表す「たら」の後件に話し手とかかわりを持つ事態を表す際は、「てくる」な

どを用いてそのかかわりを明示する必要があると言える。そして、(19)(20)のように、そのかかわりを明示しないと、事態を他人事のように客観的に描写していることになる。(17)(18)で事実条件を表す「たら」が不自然な理由も、後件の事態が話し手に好ましくない影響を与えているにもかかわらず、話し手と事態とのかかわりが明示されておらず、まるで他人事のごとく描写しているような意味合いが生じるためであると言えよう。一方「-었더니 essteni」は、後件に話し手とかかわりを持つ事態を表す際でも、そのかかわりを明示せずとも自然に用いられる。このことから、「-었더니 essteni」は、事実条件を表す「たら」とは異なり、その使用において話し手と事態とのかかわりは問題にしないと言える。また、このような相違は後件の事態が状態を表す場合に限るものではない。

(23) a. (俺が)叫んだら、急に犬が{?飛びかかった/飛びかかってきた}。
b. (내가) 소리쳤더니 갑자기 개가 {달려들었다/
(nay-ka) solichy-essteni kapcaki kay-ka {tallyetul-ess-ta/
(俺-が) 叫ぶ-ESSTENI 急に 犬-が {飛びかかる-[過去]-[叙述]/
?달려들어 왔다}.
?tallyetul-ew-ass-ta}
?飛びかかる-てくる-[過去]-[叙述]} (作例)

(24) a. 太郎が叫んだら、急に犬が彼に{飛びかかった/?飛びかかってきた}。
b. 타로가 소리쳤더니 갑자기 개가 그에게
thalo-ka solichy-essteni kapcaki kay-ka ku-eykey
太郎-が 叫ぶ-ESSTENI 急に 犬-が 彼-に
{달려들었다/ ?달려들어 왔다}.
{tallyetul-ess-ta/ ?tallyetul-ew-ass-ta}
{飛びかかる-[過去]-[叙述]/ ?飛びかかる-てくる-[過去]-[叙述]}
(作例)

(23)は犬が話し手に飛びかかった事態を、(24)は犬が太郎に飛びかかった事態をそれぞれ表しているが、現代日本語においては(23)で「飛びかかってきた」が、(24)では「飛びかかった」がそれぞれ自然であるのに対し、現代韓国語においては(23)(24)ともに「달려들었다 tallyetul-ess-ta(飛びかかった)」のみが自然である。すなわち、後件が非状態の事態を表す際も、事実条件を表す「たら」の場合は話し手と事態がかかわりを持つとそのかかわりを明示して表すが、話し手と事態がかかわりを持たないとそのかかわりを明示せず他人事のように描写する。一方で、「-었더니 essteni」の場合は話し手と事態とのかかわりは問題にしないと言える[10]。

以上、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」は、話し手と事態とのかかわりの

有無で区別するか否かによって相違が生じることを確認したが、この相違が生じる背景には、事態の話し手の捉え方に相違があるためだと言える。つまるところ、事実条件を表す「たら」の場合は、「話し手中心」で事態を捉えるのに対し、「-었더니 essteni」の場合は「事態中心」で事態を捉えるためであると言える。すなわち事実条件を表す「たら」では、事態を話し手中心に捉えるため、話し手と事態にかかわりがあればそのことを示す必要があり、なければ他人事のように描写するのである。それに対し、「-었더니 essteni」では事態中心に事態を捉えるため、話し手と事態とのかかわりは問題にせず、単に事態を描写するのみで自然であると言える。

これまでの分析をまとめると、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」は以下の場合に用いられると言えるだろう。

（ｉ）事実条件を表す「たら」: 話し手が、前件の事態が成立した状況において、後件の事態を話し手中心に新たに認識したことを述べる際に用いられる。

（ii）「-었더니 essteni」: 話し手が、前件の事態の成立がきっかけで、後件の事態を事態中心に新たに認識したことを述べる際に用いられる。

以上の事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の用い方の違いから両形式の間に相違が生起すると言えよう。

6. おわりに

本稿では、現代日本語における事実条件を表す「たら」と、現代韓国語の「-었더니 essteni」の類似点と相違点を明らかにすることを試みた。その結果、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」は、形式的特徴や意味・用法など多くの点において類似しているが、事実条件を表す「たら」は話し手が前件の事態が起こった状況において後件の事態を新たに認識したことを表す際に用いられるのに対し、「-었더니 essteni」は話し手が前件の事態の成立がきっかけで後件の事態を新たに認識したことを表す際に用いられるという点で異なることがわかった。また、話し手が新たに認識した事態を後件に表す際、事実条件を表す「たら」は話し手と事態とにかかわりを持つか否かが重要で、話し手中心に捉えた事態を表すのに対し、「-었더니 essteni」は話し手と事態とのかかわりは問題にせず、事態中心に捉えた事態を表す点でも異なることが明らかになった。これらのことから、事実条件を表す「たら」は、話し手が、前件の事態が成立した状況において、後件の事態を話し手中心に新たに認識したことを述べる際に用いられるのに対し、「-었더니 essteni」は、話し手が、前件の事態の成立がきっかけで、後件の事態を事態中心に新たに認識したことを述べる際に用いられるという用い方も見出すことができた。

事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」を対照分析した従来の研究は、両形式の類似点のみに注目しており、両形式の相違点にはあまり言及がなかった。しかしながら、類似点のみでは両形式が全く同様の環境において用いられると捉えられる可能性がある。したがって、本稿で明らかになったことは、そのような問題点を解消したという点で意義があると思われる。

一方、本稿では事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の二つの形式に焦点を当てたため、事実条件を表す「たら」が「-었더니 essteni」とは対応関係をなさず、代わりに「-는데 nuntey」や「-던 중 ten cwung」と対応関係をなす場合、また、「-었더니 essteni」が事実条件を表す「たら」とは対応関係をなさず、代わりに「から」と対応関係をなす場合についての分析は十分にはできなかった。さらに、本稿で明らかになった事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の機能における相違と、後件の事態に対する話し手の捉え方の相違とにどのような関連があるかについても触れることができなかった。事態の捉え方の相違は単文や談話レベルでも見られるため[11]、事実条件を表す「たら」と「-었더니 essteni」の機能の相違とどのような関連があるかについては、他の接続助詞の場合とを比較するなど、さらなる検討が必要であると思われる。なお、本稿は「たら」が事実条件を表す場合に焦点を当てて「-었더니 essteni」と対照分析を行ったため、「たら」が仮説条件や反事実条件などを表す場合への言及も十分にはできなかった。「たら」と「-었더니 essteni」の本質を明らかにするためにも、また現代日本語と現代韓国語における接続助詞のカテゴリー形成を明らかにするためにも、他の形式も対照分析を行う必要があると考えられる。これらは今後の課題としたい。

註

1 「-면 myen」は用言の母音終わりの語幹に付き、子音終わりの語幹に付く場合は異形態として「-으면 umyen」の形が存在するが、本稿では便宜上「-면 myen」に統一する。

2 本稿における現代韓国語のローマ字表記は、Yale 式ローマ字表記を用いる。

3 本稿における現代韓国語の例文のグロスは、丁寧の意を表す「-pnita／supnita」「-yo」は［丁寧］、過去・完了を表す「-ass／ess／yss-」は［過去］、用言の連体形「-n」（動詞過去）「-n／un」（形容詞・指定詞現在）「-nun」（動詞現在）「-l／ul」（未来）は［連体］、可能を表す「-l／ul swu iss-」は［可能］、叙述を表す「-ta」「-ya」「-e」は［叙述］、状態を表す複合表現「-ko iss-」（進行状態）「-a／e／y iss-」（結果状態）は［状態］、否定を表す「-ci anh-」「an」は［否定］、理由を表す「-a／e／y」「-ase／ese／yse」は［理由］、用言の副詞形「-key」は［副詞］、連用形「-a／e／y」「-ko」は［連用］、引用を表す語尾「-lako」「-tako」「-nyako」「-inyako」は［引用］、婉曲を表す「-nuntey」は［婉曲］、試行を表す「-a／e／y po-」は［試行］、継起を表す「-ko」「-a／e／y」は［継起］、付帯状況を表す「-ko」は［付帯］と示している。また、現代日本語に対応する形式

がある場合は、日本語で示している。

4 本稿における「事実条件」という用語は、日本語記述文法研究会（2008）に従っており、蓮沼（1993）の「事実的用法」、前田（2009）の「非仮定的」の「一回的」に該当するものである。「事実」という用語は、過去の習慣などの多回的な事態や、成立が確定している事態も含まれることがあるが、本稿では狭い意味で用いている。

5 「-었더니 essteni」は用言の陰母音の語幹に付き、陽母音の語幹に付く場合は異形態として「-았더니 assteni」、用言が「하다 hata」の場合は「했더니 hayssteni」の形が存在するが、本稿では便宜上「-었더니 essteni」に統一する。

6 本稿の調査において、現代日本語で書かれた小説と漫画から収集された事実条件を表す「たら」の用例数は 221 例であり、その中で「-었더니 essteni」と対応関係をなしている用例数が 66 例（29.86%）と最も高く、「-자 ca」が 33 例（14.93%）、「-었는데 essnuntey」が 29 例（13.12%）という順で対応関係をなしていた。そして、現代韓国語で書かれた小説と漫画から収集された「-었더니 essteni」の用例数は 53 例であり、その中で事実条件を表す「たら」と対応関係をなしている用例数が 18 例（33.96%）と最も高く、「と」が 6 例（11.32%）、「のに」が 4 例（7.55%）という順で対応関係をなしていた。

7 現代日本語の条件を表す「と」にも事実条件を表す用法があり、主に現代韓国語の「-자 ca」と対応関係をなす（尹聖樂 2019）。

8 本稿における「{／}」は、左側が原本に用いられた形式を表し、右側が分析のために置き換えた形式を表す。そして「?」はインフォーマント調査によって不自然だとみなされたものを示す。なお、インフォーマント調査は、韓国在住の 20 代及び 30 代の韓国語母語話者計 7 名と、日本在住の 20 代及び 30 代の日本語母語話者計 5 名を対象とした。

9 原本に用いられている「-으니까 unikka」は、理由や根拠、前提を表す接続助詞である（韓国・国立国語院 2012：692）。

10 本稿では話し手と事態とのかかわりを明示する形式として「てくる」のみを取り上げているが、受け身や終助詞「よ」などを用いて事態とのかかわりを明示することもある。

11 池上他（2010）では日本語の受け身文において＜私＞が話し手の意識の中心にあるとされており、金慶珠（2001）では談話構成において日本語母語話者は特定人物を中心に、韓国語母語話者は行為主体を中心に談話を構成する傾向があると述べられている。

参考文献

有田節子（1999）「プロトタイプから見た日本語の条件文」『言語研究』115，77-108，学術雑誌目次速報データベース由来.

安平鎬（2002）「事実的用法を表す「たら」と「했더니」をめぐって」『일본학보』52，293-303，한국일본학회.

池上嘉彦・守屋三千代（2010）『自然な日本語を教えるために――認知言語学をふまえて――』ひ

つじ書房.
韓国・国立国語院（2012）『標準韓国語文法辞典』アルク.
金慶珠（2001）「談話構成における母語話者と学習者の視点――日韓両言語における主語と動詞の用い方を中心に――」『日本語教育』109，60-69，日本語教育学会.
久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店.
グループ・ジャマシイ（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版.
グループ・ジャマシイ（2011）『日本語文型辞典 韓国語版』くろしお出版.
日本語記述文法研究会（2008）『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』くろしお出版.
蓮沼昭子（1993）「「たら」と「と」の事実的用法をめぐって」，益岡隆志（編）『日本語の条件表現』，73-96，くろしお出版.
前田直子（2009）『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版.
尹聖樂（2019）「事実条件を表す現代日本語「と」と現代韓国語「-자」の対照」『朝鮮語研究』8，57-78，朝鮮語研究会.
김선영［キム・ソニョン］（2013）「확정조건「と」「たら」의 한국어 대응관계 분석」『언어학연구』18，25-48，한국언어연구학회.
서정수［ソ・ジョンス］（1994）『국어문법』뿌리깊은나무.
송선애［ソン・ソネ］（2006）「기정조건표현의 한일 대조연구」『일본문화연구』17，123-142，동아시아일본학회.
송재목［ソン・ジェモク］（2011）「‘-더니’와 ‘-었더니’: 선어말어미 ‘-더-’와의 관련성을 중심으로」『국어학』60，33-67，국어학회.
이필영［イ・ピリョン］（2011）「‘-essteni’의 통사와 의미」『어문연구』69，61-87，어문연구학회.

用例出典

青山剛昌（2015）『名探偵コナン 88』小学館.
（対訳：오경화（訳）（2016）『명탐정 코난 88』서울문화사.）
奥田英朗（2014）『ナオミとカナコ』幻冬舎.
（対訳：김해용（訳）（2015）『나오미와 가나코』예담.）
東野圭吾（2012）『ナミヤ雑貨店の奇跡』角川書店.
（対訳：양윤옥（訳）（2012）『나미야 잡화점의 기적』현대문학.）
久坂部羊（2006）『無痛』幻冬舎.
（対訳：김난주（訳）（2016）『무통』예문아카이브.）
湊かなえ（2012）『母性』新潮社.
（対訳：김혜영（訳）（2013）『모성』북폴리오.）
허영만（2003）『식객 3』김영사.
（対訳：カン・スンジャ（訳）（2009）『食客 3』講談社.）